

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	3	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
『探究 論理国語』(桐原書店)	『現代文キーワード読解』(Z会)

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨		
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価方法		
・学習内容への取り組み ・課題，提出物の内容	・振り返りの記述 ・定期テスト	・発問への解答 ・小テスト

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	文章の要旨を読む	チンパンジーは「おせっかい」をしない	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握することができる。	○	○	
	根拠をもって書く	動物の信号と人間の言語	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。		○	○
一学期期末テスト	新しい見方を読む	カフェの開店準備	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	○	○	
	構成や展開を工夫しながら書く	イスラム感覚	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。		○	○
	吟味しながら読む	芸術も科学も「別世界」を見せる	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	○	○	
二学期中間テスト	題材を決めて書く	ロボットは心を持つか	実社会に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。	○	○	
	複数の資料をもとに読む	ドローン兵器とSNS	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		○	○
	表現を工夫して書く	もしも宇宙に行くのなら	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができる。	○	○	
二学期期末テスト	吟味しながら書く	器としての「わたしたち」	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。	○	○	
	評価しながら読む	暴力はどこからきたか	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。		○	○
学年末テスト	助言を踏まえて書く	見えぬものを見るということ	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○	○	
	資料に注目して読む	「である」ことと「する」こと	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	3	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
『探究 論理国語』(桐原書店)	『現代文キーワード読解』(Z会)

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨		
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価方法		
・学習内容への取り組み ・課題，提出物の内容	・振り返りの記述 ・定期テスト	・発問への解答 ・小テスト

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	文章の要旨を読む	チンパンジーは「おせっかい」をしない	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握することができる。	○	○	
	根拠をもって書く	動物の信号と人間の言語	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。		○	○
一学期期末テスト	新しい見方を読む	カフェの開店準備	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	○	○	
	構成や展開を工夫しながら書く	イスラム感覚	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。		○	○
	吟味しながら読む	芸術も科学も「別世界」を見せる	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	○	○	
二学期中間テスト	題材を決めて書く	ロボットは心を持つか	実社会に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。	○	○	
	複数の資料をもとに読む	ドローン兵器とSNS	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		○	○
	表現を工夫して書く	もしも宇宙に行くのなら	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができる。	○	○	
二学期期末テスト	吟味しながら書く	器としての「わたしたち」	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。	○	○	
	評価しながら読む	暴力はどこからきたか	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。		○	○
学年末テスト	助言を踏まえて書く	見えぬものを見るということ	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○	○	
	資料に注目して読む	「である」ことと「する」こと	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	地理探究	2	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
地理探究・基本地図帳	新編フォトグラフィア

科目の目標 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--

評価の観点とその趣旨 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	知識: 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解する。 技能: 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 地理に関わる事象の意味・意義、特色や相互の関連性、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
評価方法 ・学習内容への取り組み ・課題、提出物の内容	・定期テスト ・発問評価 ・振り返りの内容 ・対話的な学びに対する取り組み ・小テスト

学習計画 期 間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点 ① ② ③
一学期 中間 テスト	自然環境	地形 気候と生態系 世界各地の自然と生活	諸事象の規則性、傾向性や、地域性などについて理解することができる。 主題を基に多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○
	資源と産業	農林水産業 資源・エネルギー 工業 第3次産業	諸事象の規則性や、課題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○
一学期 期末 テスト	資源と産業	交通・通信 貿易・観光	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○
	人口、村落・都市	人口 村落・都市	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 集落の機能や形態などに注目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○
	文化と国家	生活文化と言語・宗教 国家とその領域	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○
二期 中間 テスト	現代世界の諸地域	中国・朝鮮半島 東南アジア・南アジア 西アジア・中央アジア 北アフリカ・サブサハラアフリカ	地理的要因について、経済成長と関連づけながら理解することができる。 地理的要因について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 経済成長に着目し、隣国や日本との関係を踏まえつつ追究しようとしている。	○ ○ ○
二期 期末 テスト	現代世界の諸地域	ヨーロッパ・ロシア アングロアメリカ・ラテンアメリカ オーストラリア ニュージーランドと島嶼国	地理的要因について、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。 地理的要因について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 地理的要因に関して、隣国や日本との関係を踏まえつつ追究しようとしている。	○ ○ ○
学年 末 テスト	自然環境	日本の自然環境と防災	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○
		地球環境問題	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○ ○ ○

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	公共	2	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
高等学校 公共(帝国書院)	テーマ別資料 公共2025(東京法令出版) 高等学校 公共ノート(帝国書院)

科目の目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
② 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断すると同時に、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	
・定期テスト ・小テスト ・振り返りの記述内容	・課題、レポートなどの記述内容 ・グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	第1部 わたしたちがつくる社会 第1章 社会の中の私たち	第1節 青年期と社会参加 現代社会、青年期、悩み、ジェンダー、学び、社会参画とキャリア	現代の社会が抱える課題等についての知識を習得し、その活用方法を身に付けている。	○		
		第2節 宗教・思想・伝統文化と社会	現代社会や、青年期、宗教について考察し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
		宗教、日本思想、日本の伝統と文化	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
一学期 期末テスト	第2章 思想から学ぶべきもの	第1節 倫理的な見方・考え方 古代ギリシャ、古代中国、近代西洋、現代の思想	社会と人間に関わる思想についての知識を理解し身に付けている。	○		
			先哲の考え方を活用して具体的な事例についての判断を行い、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			公共的な空間での人間の在り方・生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
	第3章 私たちの社会の基本原則	第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	近代立憲主義の考え方の基本的な理解を踏まえ、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配など、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身に付けている。	○		
		近代立憲主義、日本国憲法(平等権、自由権、社会権、新しい人権)、人権の国際化	最高法規としての憲法の位置付けに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについて判断し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現実社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○

一学期中間テスト	第2部 社会のしくみと諸課題	第1節 法の意義と司法参加	所有権や契約に関する基本的な理解を踏まえ、契約の成立や解除などの資料を活用して、法的な権利と責任に関する知識を身に付けている。	○		
	第1章 私たちと法	社会規範と法、生活と法、契約、消費者の権利、司法制度	契約や司法制度について判断し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
	第2章 私たちと政治	第1節 民主社会と政治参加 政治と権力、議院内閣制と国会、権力分立と行政、地方自治、政党政治、選挙制度	国民の政治参加にはさまざまな手段があることを理解した上で、政治参加の権利(参政権)と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身に付けている。	○		
二学期期末テスト			国会・地方自治について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に社会に関わろうとしている。			○
	第3章 私たちと経済	第1節 市場経済のしくみ 経済市場、市場機構、企業、金融、財政、経済変動	経済のしくみと、企業・政府の役割、日本経済の変遷とその課題に関する知識を身に付けている。	○		
		第2節 豊かな社会の実現 産業構造の変化、中小企業と農業、労働者の権利、社会保障	市場経済の考え方をを用いて、市場機構や分業のあり方を理解し、その内容をわかりやすく表現することができる。		○	
学年末テスト			市場経済の機能と限界に関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
	第3章 私たちと経済	第3節 国際経済の動向と格差の是正 国際経済のしくみ、地域経済統合、グローバル化と自由貿易協定、経済格差	経済のグローバル化に関する基本的な理解に基づき、グローバル企業の展開と課題について理解し、自由貿易協定の動向について必要な知識を身に付けている。	○		
			新興国台頭の背景と、近年の国際経済・金融危機に関する基本的な知識を用いて、国際経済におけるパワーバランスの変化とそれに生じる課題について説明することができる。		○	
			経済のグローバル化と国際社会における貧困や格差の問題などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
	第3部 持続可能な社会の実現に向けて		これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいて、より学習を深めることができる課題を設定している。	○		
			課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを整理して、レポート等の形でわかりやすく表現している。		○	
			第1部、第2部の学習を振り返りながら、幸福、正義、公正などに着目して現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家、社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	日本史探究	2	2年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
精選日本史探究	精選日本史探究 演習ノート, 図説 日本史通覧

科目の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法 ・学習内容への取り組み ・発問評価 ・課題、提出物の内容 ・小テスト ・定期テスト ・振り返りの内容 ・対話的な学びに対する取り組み	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
① 期末テスト	第1編 原始・古代の日本と東アジア	第1章 国家と文化の形成	原始・古代社会の特色について、時代を通観する問いを表現する。 狩猟採集社会から農耕社会への変化を多面的・多角的に考察する。 国家と古墳文化の形成を基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。			○
		第2章 古代国家の確立	隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響を理解する。 律令制度の急速な導入が図られた背景を多面的、多角的に考察する。	○	○	
			東アジアとの関わりに着目し、奈良時代の政治的展開を理解する。	○		
			遣唐使の派遣により、日本列島の文化に国際性がもたらされたことを多面的、多角的に考察する。		○	
			律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。	○		
			摂関政治の成立やそれ以前との政治の在り方の違いなどについて、問いを表現する。			○
			東アジアとの関係性の中で国風文化が成立したことを理解する。 地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治や社会にどのような影響を与えたかについて多面的・多角的に考察する。	○	○	
② 期末テスト	第2編 中世の日本と世界	第3章 中世社会の成立	中世社会における権力主体の担い手について、時代を通観する問いを表現する。			○
			武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解する。	○		
			鎌倉幕府の成立年に諸説があることを基に、武家政権の特徴を多面的・多角的に考察する。		○	
			分割相続から単独相続への変化などを基に、武士の社会の特徴を理解する。	○		
			東アジアとの関係性の中でモンゴル襲来が行われたことを理解する。	○		
			鎌倉時代の宗教や文化に見られる平安時代からの特徴の継承や差異を多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第3編 近世の日本と世界	第4章 中世社会の展開	室町幕府の政治や経済面の権力基盤の特徴を理解する。	○		
			自治的な村や町の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、多面的・多角的に考察する。		○	
			室町期の宗教や文化の特徴が、経済の進展や各地の都市や村の発達や東アジアとの交流などに関連していることを理解する。	○		
		第5章 統一政権の成立	戦国時代の領国経営と畿内との政治的・経済的な関係について多面的・多角的に考察する。		○	
			統一政権としての織豊政権の成立などを基に、時代を通観する問いを表現する。			○
			織豊政権の成立やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目し、桃山文化の特徴を多面的・多角的に考察する。		○	
			江戸幕府の対外政策の推移と世界の諸国や諸地域の動向を踏まえ、鎖国に至った経緯を多面的・多角的に考察する。		○	
			幕藩社会における身分制の構造や諸産業の発達を理解する。	○		
			戦乱の終結を機に、幕政が文治政治に転換する過程を多面的・多角的に考察する。		○	
		第6章 幕藩体制の展開	諸産業の発達に伴って、貨幣経済も発達したことを理解する。	○		
			町人が中心となって元禄文化が担われたことを理解する。	○		
			享保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
			幕府政治のあり方を批判する思想や近代的な合理主義が生まれたことを理解する。	○		
			寛政の改革と天保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
			三都の繁栄を背景として民衆を基盤とする町人文化が最盛期を迎えたことを理解する。	○		

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学ⅠA演習	3	2年	総合コース

使用教科書	副教材等
数研出版 新編 数学Ⅰ・数学A	数研出版 3TRIAL 数学Ⅰ＋A

科目の目標 (1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互にに関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互にに関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
評価方法	
知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。 思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。 主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方をもとに評価する。	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	数と式		二次の展開公式及び因数分解の公式の理解を深める。	○		○
5			数を実数まで拡張する意義を理解し、無理数の四則計算をする。	○		○
			不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。	○		○
			不等式の性質を基に一次方程式を解く方法を考察する。		○	○
			様々な事象を数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用する。		○	○
5	2次関数		二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	○		○
6			二次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。		○	○
			二次関数の最大値や最小値を求める。	○		○
			2つの数量の関係に着目し、様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。		○	○
			二次方程式の解とグラフの関係について理解する。	○		○
	二次不等式の解を二次関数のグラフをもとに求める。	○		○		
9	場合の数		集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解できる。	○		○
10			具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。	○		○
			事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察できる。		○	○
10	確率		確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。	○		○
11			独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。	○		○
12			確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察できる。		○	○
			確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用しようとする。		○	○
1	図形の性質		三角形に関する基本的な性質について理解できる。	○		○
2			円に関する基本的な性質について理解できる。	○		○
			図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察できる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学Ⅱ	2	2年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
数研出版 最新 数学Ⅱ	数研出版 3ROUND 数学Ⅱ

科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)いろいろな式、図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	いろいろな式、図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
評価方法	
知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。 思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。 主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 7	式と証明		三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解できる。	○		○
			式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察できる。		○	○
			実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明できる。		○	○
7 5 11 1	複素数と方程式		数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。	○		○
			因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。	○		○
			2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。		○	○
			日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用しようとする。			○
1 1 5 2	図形と方程式		座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。	○		○
			不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。	○		○
			座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できる		○	○
			数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え問題解決に利用しようとする。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	2年	2学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

科目の目標
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、 ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。
評価方法	
・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
		ベースボール型	身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
6	水泳	平泳ぎ、メドレー (スタート、ターン)	バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○	
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○
			各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

7	体育理論	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習	技能と体力の関係や高めるときに気を付けるべき点を説明できる。	○		
			技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。		○	
			練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。			○
9	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	○		
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。			○
10	陸上競技	短距離走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	○		
			合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。	○		
			自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
		ハードル走	スタートダッシュからリズムカルにスピードを維持しながらハードルを越えることができる。	○		
			ハードルを低く素早く越えながらタイムを短縮したり、競争したりすることができる。	○		
11	球技 ダンス	ゴール型 (男子)	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
		現代的なリズムのダンス (女子)	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。	○		
			リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。	○		
12	体育理論	効果的な動きのメカニズム 体カトレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。	○		
			目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。		○	
			スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、せおの発生原因と予防方法を説明できる。			○
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	○		
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。			○
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
2	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。	○		
			「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。		○	
			国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。		○	
			豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	2年	2学年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育(大修館書店)	現代高等保健体育ノート(大修館書店) 図説現代高等保健体育(大修館書店)

科目の目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・生涯を通じる健康について、理解を深めること。 ・健康を支える環境づくりについて、理解を深めること。
② 思考・判断・表現	・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもつことができる。 ・生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力をつけている。
評価方法	
・知識・技能の点検、確認、分析(定期テスト、小テスト、スキルテスト、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	生涯を通じる健康	1 ライフステージと健康	ライフステージと健康の関連やライフステージで活用できる社会からの支援について説明できる。		○	
		2 思春期と健康	思春期における体の変化や心の発達にかかわって起こる問題について説明できる。	○		
		3 性意識と性行動の選択	性意識の男女差や性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて説明できる。		○	○
		4 妊娠・出産と健康	妊娠出産の過程における健康問題や母子保健サービスについて説明できる。	○	○	
		5 避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法や人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	○		
		6 結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係や、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について説明できる。	○	○	
		7 中高年期と健康	加齢にともなう心身の変化や高齢社会に必要な社会的な取り組みについて説明できる。			○
		8 働くことと健康	働くことの意義と健康とのかかわりや働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	○		
		9 労働災害と健康	労働災害の種類とその原因や労働災害を防止するために必要なことをあげて説明できる。		○	
		10 健康的な職業生活	職場が行う健康に関する取り組みや余暇を積極的に取ることの意義について説明できる。		○	
9 10 11 12 1 2	健康を支える環境づくり	11 大気汚染と健康	大気汚染の原因と健康への影響や大気に関わる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。		○	
		12 水質汚濁、土壌汚染と健康	水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。			○
		13 環境と健康にかかわる対策	環境汚染による健康被害を防ぐ方法や産業廃棄物の処理について説明できる。			○
		14 ごみの処理と上下水道の整備	ゴミの処理の現場や上下水道の仕組みと健康について課題を説明できる。			○
		15 食品の安全性	食品の安全性と健康との関わりについて説明できる。	○		
		16 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。	○	○	
		17 保健サービスとその活用	保健行政の役割や保険サービスの活用について例をあげて説明できる。	○	○	
		18 医療サービスとその活用	わが国における医療保険の仕組みや様々な医療機関の役割について説明できる。			○
		19 医薬品の制度とその活用	医薬品の正しい使用方や安全性を守る取り組みについて説明できる。		○	
		20 さまざまな保健活動や社会的対策	国際機関、民間機関等の保健活動について例をあげて説明できる。	○		
		21 健康に関する環境づくりと社会参加	健康の保持、増進のための環境作りについて説明できる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅱ	2	2年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
MOUSA2 教育芸術社	高校生のための音楽研究ノート

科目の目標
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かものにしていく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。
評価方法	
ア 取り組みの観点 イ 演奏、作品の内容 ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう	表現 歌唱 p.10.12.13.16	・曲想と音楽の構造や、歌詞との関わり、及びその関わりから生みだされる表現上の効果の理解を深める。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、他者との調和を意識しなら個性豊かに、歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	
	リズムにのってアンサンブルをしよう	表現 器楽 p.20.23.56	曲想と音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解を深める。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに、器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
6	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	表現 器楽 p.52.54	・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解を深める。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能及び他者との調和を意識し、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
7	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	鑑賞 p.99.100.101	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解を深める。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	○	○	○
9	日本の伝統音楽と郷土について知ろう	鑑賞 表現 歌唱 p.70.72.73	・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深める。 ・音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる ・長唄の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	和楽器に親しみ、表現を工夫して演奏しよう	表現 器楽 p.74.75.76	・曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに、器楽表現を創意工夫することができる	○	○	○
11	変奏や編曲に挑戦しよう	表現 創作 p.34.35	・音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲する技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
12	日本や諸外国(ヨーロッパ)の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	表現 歌唱 鑑賞 p.24.25.26.34.43.46.107	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	世界の諸民族の音楽を知ろう(ヨーロッパ・アジア・南アメリカを含む)	鑑賞 表現 器楽 p.80	・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、その他の芸術との関わりについて理解を深める。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠についてについて考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
1	映画音楽を鑑賞しよう	鑑賞 p.6	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解を深める。			
	音色の特徴を生かしながら、構成を工夫して創作しよう	表現 創作 p.58	・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について。表したいイメージと関わらせて理解を深める。 ・反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくったりする技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	表現 器楽 p.31	・曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに、器楽表現を創意工夫することができる。			

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術Ⅱ	2	2年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
美術2（光村図書）	プリント

科目の目標
美術の幅広い創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
② 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	人物を描く	A表現 絵画 p.8	対象となる人物との関係や受ける印象をもとに発想を広げ、工夫して描くことができる。	○	○	○
5			人体プロポーションを含む構造を理解し美しく動勢ある人物を描くことができる。			
6	心の中の風景	A表現 絵画 p.20	心に浮かんだ風景を形や色、構図を工夫して描く。	○	○	○
7	ミッドセンチュリーデザイン	B鑑賞 デザイン p.42	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	○		○
9	抽象への誘い	B鑑賞 A表現 絵画 p.26	1940～1960年代、アメリカを中心に発祥した優れた家具やインテリアデザインの特徴を学び20世紀のデザインの傾向を知る。	○		○
10	ゲルハルト・リヒター マーク・ロスコ		抽象絵画とそれらを描いた作家について知り、色や構図を参考に自分なりの抽象表現で絵画作品を制作する。	○	○	○
11	素材と向き合う 真鍮ペーパーナイフ作り。	A表現 デザイン 金工 p.28	ゲルハルト・リヒターやマーク・ロスコの作品を通し抽象画の成り立ち、作者の意図と創造的工夫などを理解し、創造につなげられる。	○	○	○
12			素材を生かし、生活の中にあるデザインをほどこす。真鍮素材を削り出し、ペーパーナイフを作る。	○	○	○
1	和紙と墨	A表現 B鑑賞	機能とデザイン的美しさを兼ね備えた造形を作り出すことができる。			
2	(日本及びアジア地域で和紙に墨で描かれた絵画を手本に描く。)	絵画(日本、中国、韓国の水墨画)	唐代に成立したとされる墨で表現される墨絵を学ぶ、日本、中国、韓国の作品を鑑賞し、特に中国からの画題の影響に着目し描く。	○	○	○
3			美術Ⅰで学んだ墨で描く表現をベースに主題と背景の関係、墨の濃淡の幅と使用箇所を工夫して描ける。			

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道Ⅱ	2	2年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
書Ⅱ 光村図書	

科目の目標 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書の伝統と文化と深く関る資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2)書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3)主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	書の表現方法や形式、多様性などについて理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけて表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ワークシートの記入内容、鑑賞カードの記入内容、発表の内容、作品・授業に取り組む姿勢などを基に、総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	漢字の書	泰山刻石 石鼓文	各書体の典型的な字形と用筆について理解し、技法を習得する。 各古典の書風を比較し、表現効果を考え取る。 漢字の書体の変遷について理解を深める。 蘭亭序を硬筆で全臨する。	○	○	
5	隷書	乙瑛碑 曹全碑		○	○	
6	草書	十七帖 書譜		○	○	
7	行書	集王聖教序		○		○
9	楷書	始平公造像記		○		○
10	創作	座右の銘を書こう	感興や意図に応じて素材を選び、個性的に表現する。		○	○
11	仮名の書 古筆に学ぶ	高野切第一種	平仮名とは系統の異なる片仮名の成立と字源について理解を深める。 高野切第一種の書風の特徴を捉え、臨書する。	○		○
	創作	百人一首を書こう	創作を通して、充実感や喜びを味わう。		○	○
12			漢字仮名交じりの文の成立について、理解を深める。 古典の書風を生かすことで、多様な表現が生まれることを理解する。 文字の大きさ、漢字の書体(楷書・行書)、仮名の種類(平仮名・片仮名)について工夫し、調和させて表現することができる。	○	○	○
	1	漢字仮名交じりの書	古典の書風を生かそう			
2	古典・名著に学ぶ					
	創作	イメージを書で表現する	書の現代的意義について理解を深める。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーション I	2	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
Power On English Communication I	Power On English Communication I WORKBOOK Database 3300 基本英単語・熟語

科目の目標 (1)聞くこと 日常的な話題について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 話すこと[発表] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3)読むこと 日常的な話題について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
--

評価の観点とその趣旨 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 評価方法 ペーパーテスト パフォーマンステスト	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。 ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
--	---

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Oh My Cod	Lesson 8	フィッシュアンドチップスの期限や歴史について読み取ることができる。	○		○
			食べ物についてのレポートを作成し、紹介することができる。		○	○
5	Is E-sports a Real Sport?	Lesson 9	eスポーツについての会話を聞き取ることができる。	○	○	
			eスポーツの利点を示しながら意見の異なる相手を説得するための発表をすることができる。		○	○
6 7	Being Different Is Beautiful	Lesson10	ヨシダナギさんの過去とぜんざいについて読み取ることができる。	○	○	
			ヨシダナギさんについての発表用の原稿を書くことができる。		○	○
9	Pragraph Writing3 THANK YOU, ICHIRO	つながりを示す語句(2) Optional Reading	つながりを示す語句を使用してパラグラフを書くことができる。	○	○	
			イチロー選手に対する手紙を読んで内容を理解する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅡ	2	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
Power On English Communication Ⅱ	Power On English Communication Ⅱ WORKBOOK Database 3300 基本英単語・熟語

科目の目標 (1)聞くこと 日常的な話題について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 話すこと[発表] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3)読むこと 日常的な話題について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
--

評価の観点とその趣旨			
① 知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		
② 思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。		
③ 主体的に学習に取り組む態度	・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価方法			
ペーパーテスト パフォーマンステスト			

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4						
5						
6						
7						
9						
10	Play Me, I’m Yours	Lesson 1	ストリートピアノについてのレポートを聞き、概要を理解することができる。 友人が興味を持てるように、読んだり聞いたりしたことを伝えることができる。	○		○
11	Ethical Fashion	Lesson 2	エシカルファッションについての文章を読み、ファストファッションとの違いを読み取ることができる。 自分の好きなファッションやコーディネートについて、理由と共に友人に紹介することができる。	○	○	○
12	One for All, All for One	Lesson 3	ラグビー選手のラジオインタビューを聞き、問いに対する答えを整理しながら聞き取ることができる。 自分の好きなスポーツ選手について、調べたことを発表することができる。	○	○	○
2	Vending Machine	Lesson 4	海外のウェブサイトから内容を読み取ることができる。 自分の住む地域に設置する自動販売機を紹介するポスターを作成し、発表することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	フードデザイン	2	2年	総合コース

使用教科書	副教材等
フードデザイン(実教出版)	スーパーライブビュー(東京書籍)

科目の目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1)栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技術	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。
② 思考・判断・表現	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。
評価方法	
・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況) ・提出物(家庭生活に関する課題) ・ホームプロジェクト(レポートや製作物) ・実習・実技(技能・製作物や作品) ・定期試験(学習内容の理解・定着度)	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と食事計画	・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらきについての知識を得ることができる。消化・吸収について理解している。 ・からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる。 ・食生活の現状とも関わらせながら、「日本人の食事摂取基準」や「食品群別摂取量のめやす」などを活用し、ライフステージに応じた食事計画にいかそうとしている。 ・1日に必要なエネルギー量を求めることができる。	○		
	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。	○		
一学期 期末テスト	4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	・調理の目的とおいしさにかかわる要因について理解している。 ・主な加熱操作と非加熱操作について、食品の調理性や栄養的特徴などがかかわらせて理解できる。 ・食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度などに関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりを与える影響について思考を深めることができる。 ・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。	○		
					○	
二学期 中間テスト	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。	○		
	3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を得ることができる。 ・食品の生産・流通・加工などの現状における課題について考えをまとめ、レポートを通して発表することができる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。 ・食品の表示・衛生に関心を持とうとしている。	○	○	
二学期 期末テスト	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。	○		
	5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	・様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 ・目的に応じたテーブルコーディネートができる。 ・食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。 ・日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持とうとしている。	○	○	
	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。	○		
学年 末テスト	第7章 食育	1節 食育の意義と推進活動	・食育基本法の理念を知り、食育に関するさまざまな活動が行われていることを理解できる。 ・食育活動について情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ・食についての課題を見だし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。 ・食育の意義と活動に関心を持とうとしている。	○		
	1章 食生活と健康	1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	・現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲がある。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
情報	情報 I	2	2年	2学年

使用教科書	副教材等
日本文教出版 情報 I 図解と実習 (情 I 711) 図解編	

科目の目標 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。 (2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
② 思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	
① 知識・技能	期末・学年末テスト、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
② 思考・判断・表現	期末・学年末テスト、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
③ 主体的に学習に取り組む態度	実習への取り組み、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
上記による総合的な評価を行う。	

学習計画						
学期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1	図解編 第1章 情報社会とわたしたち 第1節 情報社会を見渡してみよう	①SNSの普及と情報モラル ② 情報社会とは ③ 大切な情報を守るために ④ 情報社会を支える法律 ⑤ 著作権に関する法律	・SNSの利便性について具体的に理解している。 ・SNSの長所・短所について例をあげて説明できる。 ・情報社会とは何かについて理解している。 ・情報社会のさまざまな課題に対して主体的に解決策を考えようとしている。 ・情報セキュリティを高めるためにどのような方法があるか理解している。 ・個人で取り組む情報セキュリティ対策について理解している。 ・個人情報や知的財産権、産業財産権は法律によって扱い方が定められていることを理解している。 ・著作権に関する法律を理解して、著作物を主体的に利用しようとしている。	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 <

	実習編 section3 STEP1 文化祭の ポスターをつくろう 第3節情報のデジ タル化	な手段 ④ 誰にとってもわかりや すい情報デザインの工夫 ⑤ 情報デザインの流れ 3 ポスターを制作しよう ① デジタルデータと2進 法 ② 文字・音のデジタル化 のしくみ ③ 画像のデジタル化のし くみ ④ 動画のデジタル化のし くみ ⑤ 圧縮のしくみ	いる。 ・情報デザインが人や社会に果たす役割を理解している。 ・用語の意味を理解している。 ・情報デザインによる問題解決の流れを理解している。 ・ポスターの企画に主体的に参加しようとしている。 ・アナログとデジタルの特徴を理解している。 ・数を2進法, 10進法, 16進法で表現することができる。 ・文字や音をデジタル化する手順を標本化, 量子化, 符号化を含めて理解している。 ・画像をデジタル化する手順である, 標本化, 量子化, 符号化について理解している。 ・デジタル化された画像のファイルサイズを色, 解像度, 階調の観点から考察している。 ・動画をデジタル化する手順を理解している。 ・圧縮率と計算方法を理解している。 ・画像を別々のファイル形式で保存したときのファイルサイズを比較しようとしている。 ・CSUに主体的に取り組み, コンピュータで文字を処理するしくみを理解しようとしている。	○			○
	実習編 section4 STEP1 コンピュー タを使わずに 情 報科学を学んでみ	1 文字を数であらわして みよう					○
2	第3章 コンピュー タとプログラミング 第1節コンピュータ のしくみ 第2節アルゴリズム とプログラム 実習編 section5 STEP2 身近な手 順をフローチャー トであらわそう 実習編 section6 STEP1 Scratchで プログラミングをし てみよう 第3節モデル化と シミュレーション 実習編 section7 STEP1 身近な題 材でモデルを使っ た シミュ レーションをしてみ よう	① コンピュータの基本的 な構成 ② CPUとメインメモリ ③ CPUの演算のしくみ ① ものごとの手順とアル ゴリズム ② アルゴリズムを図式化 してみよう ③ プログラムとプログラミ ング言語 ④ プログラムの構造 ⑤ プログラムを改善する ときの考え方 ⑥ プログラミングスタイル の変化 身近な手順をフロー チャートであらわしてみよう 1 Scratchを使ってみよう 2 「あっちむいてホイ！」 ー乱数を利用したアニ ①モデル化とは ② モデルを利用した問 題解決 1 紙のモデルを使ってシ ミュレーションをしてみよう 2 コンピュータを利用して シミュレーションをしてみよう	・コンピュータのしくみについて理解している。 ・ハードウェアの役割について理解している。 ・CPUで行われる2種類の演算を理解している。 ・コンピュータは決められたアルゴリズムの通りに命令を実行していることを理解している。 ・アルゴリズムを構成する順次・分岐・反復について理解している。 ・アルゴリズムをフローチャートでわかりやすく表現することができる。 ・コンピュータ内蔵の機器にプログラムが組み込まれていることを理解している。 ・Scratchを用いたプログラムの基本構造やプログラムの変数と処理の流れについて理解している。 ・プログラムをよりよくするための工夫について主体的に考えようとしている。 ・効率のよいプログラミングの考え方, 構造化とオブジェクト指向の考え方について理解している。 ・効率のよいプログラミングの考え方, 構造化とオブジェクト指向の考え方について理解している。 ・フローチャートの記号のルール, 読み方, 描き方を理解している。 ・自身の日常的な行動や作業などを主体的に手順に分解して考えようとしている。 ・Scratchで分岐を用いたプログラムを作成する技能を身につけている。 ・モデル化の目的について理解している。 ・モデル化とシミュレーションの関係を理解している。 ・モデル化の進め方を理解している。 ・仮説に応じたモデルに必要な構成要素を選択できる。 ・モデルの構築に工夫をほどこし, 試行錯誤をしながらシミュレーションしようとしている。	○	○	○	○
3	第4章情報通信 ネットワークとデー タの活用 第1節情報通信 ネットワーク	① 情報通信ネットワーク ② データ伝送のしくみ ～IPアドレスとプロコ ③ データ伝送のしくみ ～WWWと電子メール ④ 情報セキュリティの重 要性	・情報通信ネットワークの基本的な構成について理解している。 ・IPアドレス, ドメイン名, プロトコルのしくみやはたらきについて理解している。 ・Webページの閲覧や電子メールの送受信でどのような危険性があるか説明することができる。 ・サイバー犯罪にあわないようにするためにどのような対策をとればよいのか考えようとしている。	○	○	○	○

実習編 section8 STEP1 家庭内 LANを設計しよう	⑤ 情報セキュリティの重要性 家庭内LANを設計しよう	・情報セキュリティを確保するための技術を知り、情報通信ネットワークを適切に利用しようとしている。 ・ネットワーク環境について、機器の接続やセキュリティの確認すべきポイントについて理解している。	○	○
	第2節情報システムとデータベース	① 情報サービスとそれを支える情報システム ② データベース	・情報サービスで解決できる課題について、自分の考えを深めようとしている。 ・データベース管理システムについて理解している。	○
実習編 section9 1 「sAccess」を 使ってデータベース を操作してみよう 第3節データの活用	③ データの形式とデータモデル 1 「sAccess」を使ってデータベースを操作して	・データベースが必要となる例やその構築例について自分の考えを深めようとしている。 ・データベース学習システムを操作して、データの分析に取り組もうとしている。	○	○
	① データの収集 ② データの分析	・データの性質とその特徴について理解している。 ・データの性質とその特徴について理解している。 ・集計した数値データやテキストデータを分析し、考察している。 ・データの収集・分析に主体的に取り組もうとしている。	○	○
実習編 section10 STEP1 数値データを分析しよう	データを統計的に分析しよう			○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	素描	3	2年	美術コース

使用教科書	副教材等
新版 基礎から身につく はじめてのデッサン	プリント等

科目の目標
素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。 (2)対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3)造形表現を追求する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	素描に適した表現材料の特性を生かせるよう理解を深めている。(知識) 対象を深く観察したことを基に表現を工夫して的確に表すことができる。(技能)
② 思考・判断・表現	深い観察を通して、対象のイメージや空間を把握することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に対象を見つめ考察を深めたり、表現材料などを研究し取り入れたりするなど、造形表現を追究しようとしている。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	幾何形体	24p～31p	基本的な形態を把握し、パース正確に描き出すことができると同時に光と影を把握しグラデーションとして表現できる。	○	○	○
5	静物基礎	34p～39p	身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ描くことができる。	○	○	○
6	鑑賞 マティス ロダン	画集「マチスのデッサン集」(岩崎美術社) 画集「ロダンの水彩とデッサン展」(静岡県立美術館編集)	マティスとロダンのデッサンを取り上げ、それぞれの作品の主題や表現の意図、描き方の工夫や表現の材料活用、効果等について考察する。	○		○
7	表現材料 木炭デッサン	「木炭で描く」(アトリエ出版)	石膏像(胸像)を木炭で描く、材料や用具についての特性を理解し、表現の意図に沿って工夫しながら、表現技法を身につけることができる。	○	○	○
9	スケッチ(風景)		対象の形態や空間、よさや美しさを端的に把握したり、大まかにとらえたりして工夫しながら表す技能を高めることができる。	○	○	○
10	静物 複合体	108p～	身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ、主体的に向き合い、イメージや空間、形態などを把握し、質感などの表し方を工夫し表現できる。	○	○	○
11	人物デッサン		クロッキー(速写)をすることによって、人体のプロポーションを瞬時に把握し、人体の均衡、律動、比率を描きだすことができる。	○	○	○
12	クロッキー(速写)	180p～				
1	自画像	128p～	自画像を描くことにより、自己を深く観察するとともに人体頭部の均衡、律動、比例など人体の美的秩序を確かめ、主体的に対象に向きあい描きだすことができる。	○	○	○
2						
3						

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	構成	2	2年	美術コース2年

使用教科書	副教材等
誰も教えてくれないデザインの基本	プリント及び Photoshopトレーニングブック(ソーテック社)

科目の目標 構成の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、専門的な技術を身に付けるようにする。 (2)造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3)造形感覚を高めようとする態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	造形的な創造活動に関わる諸要素やその働きについて理解を深めている。(知識)」 材料や用具を工夫して的確に表すことができる。(技能)
② 思考・判断・表現	構成の美しさなどを考えて調和のとれた配色をしたり、材料を活用して表現効果を高めたりしていることや、対象の見方や感じ方を深めている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に自らの造形表現の可能性を追求しようとしている。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	構成基礎	chapter1・3	技法基礎・色彩基礎 分割や配置などの工夫により、変化と統一のある構成ができる。	○	○	○
5	文化祭のポスター		色彩基礎・B3で文化祭のポスターを制作する。 色彩の体系及び機能に理解を深め、ポスターとしての情報を入れつつ構成の美しさなどを考えて調和のとれた配色ができる。	○	○	○
6	文字だけでつくるポスター	chapter2	キッズイングリッシュのポスターをB4で制作する。 文字、レタリングのもつ線の美しさを理解しつつ、面と色との量感と色の持つ性質を考えながら調和のとれたデザインを施すことができる。	○	○	○
7	モチーフ構成	chapter4・5	果実を切ったりし、平面構成をする。 形態や色彩を吟味し効果的な使い方を考え、構造や機能の理解を深め、それらを総合的に扱い、構成の美しさなどを考えながら美的秩序を意図して構成画面をつくることができる。	○	○	○
9	鑑賞 ピエトロ・モンドリアン	画集「美の20世紀 (8)MONDRIAN」(二玄社)	ピエトロ・モンドリアンの画面分割と色使いを参考に、構成の構造の工夫や表現効果、作者の表現の意図や構図のねらいについて知る。	○		○
10 11	Photoshop	Photoshopトレーニングブック(ソーテック社)	Photoshopを使ったデジタルカラー作品を作る。 ソフトの操作を覚え、デジタル画面上での写真の切り張り、画像合成ができるようになる。	○	○	○
12	材料 流木を用いたモバイル制作	chapter6	材料に触れ、材質感を感じたり、加工したりする体験を通して、表現の可能性を追求するとともに、材料と用具を活用して表現効果を高めることができる。	○	○	○
1 2 3	インスタレーション 空間構成 (平面及び立体構成)	参考画集 ヨーゼフ・ボイス オラファー・エリアソン	形態や色彩、材料などの効果的な使い方を考え、構造や機能の理解を深め、それらを総合的に扱い、構成の美しさなどを考えながら美的秩序を意図して平面や立体などに表すことができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	彫刻	2	2年	美術コース

使用教科書	副教材等
	プリント及びビデオ

科目の目標 彫刻に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)表現の特性について理解を深めるとともに、専門的な技術を身に付けるようにする。 (2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3)彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	彫刻表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めている。(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や用具などを工夫して独創的・創造的に表すことができている。(技能)
② 思考・判断・表現	彫刻表現におけるそれぞれの専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現したり鑑賞したりして、絵画表現の可能性を追求しようとしている。
評価方法	
ア・学習活動への取り組み　イ・仕事の丁寧さ、作品の内容　ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容　エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	手のスケッチ 塑造での手の制作。	ANTATOMY for the artist	手の造形を把握しスケッチを描ける。粘土について、固まり方などの材料の性質や、形態や大きさ、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高いという特性を生かして、主題を明確に把握しながら、制作方法を十分検討し、創意工夫や試行錯誤を繰り返しつつ、表現を追求することができる。	○	○	○
6 7	自刻像	REAL BONES 骨格と機能美	粘土と石膏を用いて、首像を作る。 主として使用する粘土や石膏などについて、可塑性や固まり方などの材料の性質や、形態や大きさ、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高いという特性を生かして、主題を明確に把握しながら、制作方法を十分検討し、創意工夫や試行錯誤を繰り返しつつ、表現を追求することができる。	○	○	○
9 10	流木アート	「骨から見る生物の進化」 ジャン・パティスト・ド・パナフィュー	西伊豆の海岸で流木を拾い、骨格などを意識し生き生きとした作品を作る。自然に削られた素材に造形的美を感じつつ自己のイメージする造形の量感や動勢を把握し表現することができる。 従来の表現形式や表現方法などにとらわれない多様な表現活動を工夫し、個性を生かしながら表現を追求することができる。	○	○	○
11	鑑賞(彫造の表現 船越桂の彫刻表現に学ぶ。)	DVD「船越桂 never equal funakoshi kastura」	彫刻家・船越桂の作品と制作過程を鑑賞することで、主として使用する木材について木目や硬さなどの材料の性質と木彫技法の特性を理解する。作品の特徴や表現技法の工夫等に気付き、作品のよさや美しさを感じ取り、作者の意図や心情について考え、感性を磨き、見方や感じ方を深めることができる。	○		○
12	彫造 アイデアスケッチ		制作するモチーフを決め、デッサンする。 今後制作する、木彫の形態と動勢を把握し描けている。	○	○	○
1 2 3	彫造(木彫制作)	「はじめての木彫り動物 手習い帖」はしもとみお	使用する木材の木目や硬さなどの材料の性質と、付け足したりやり直したりすることがしにくいという技法の特性を理解することができる。 発想の段階においてアイデアスケッチや簡単な形を作りながら主題を生成し、表現の意図を明確に把握しながら、完成に至る確かな計画と見通しをもって制作を進め、表現を追求することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	絵画	2	2年	美術コース

使用教科書	副教材等
	プリント

科目の目標 絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)表現の形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3)絵画表現の可能性を迫及する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	絵画表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めている。(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的にあらわすことができる。(技能)
② 思考・判断・表現	絵画表現において、専門的な知識や技能を活用し創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現したり鑑賞したりして、絵画表現の可能性を追求しようとしている。
評価方法	
ア・学習活動への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	双獅祭(文化祭)ポスター原画	絵画 イラストレーション	テーマに沿った主題を自由に表すことができる特性を理解するとともに、線の美しさ、画面のバランスや動きを表すことのできる表現方法や技法を習得することができる。	○	○	○
6 7	松崎町スケッチ・コンクールに挑戦	水彩画 松崎町スケッチ・コンクール入賞作品を参考	透明水彩絵の具及び不透明水彩絵の具のそれぞれの特性と制作の手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌などを生かした表現技法を工夫することができる。	○	○	○
9	ルネッサンス絵画	鑑賞 テンペラ画制作 画集「レオナルド・ダ・ヴィンチ」集英社	ヴェロッキオとレオナルド・ダ・ヴィンチ作「キリストの洗礼」を題材にテンペラ画の伝統技法とともに油彩を組み合わせた複合的表現を知り、その技法を学ぶ。	○	○	○
11 12 1 2 3	F50号 油彩画制作	油彩画	油彩画の幅広い表現方法、絵具や多様な画溶液などの材料、筆やナイフなどの用具のもつ特性について理解し、自らの主題に応じた表現方法を追求することができる。	○	○	○